令和７年度
東京都社会的養護自立支援協議会（第３回）
会　議　録

令和７年１２月１９日

東　京　都　福　祉　局

（午後　１時３１分　開会）

○六串課長　それでは、まだ一部の委員にお集まりいただいていないですけれども、定刻を過ぎておりますので、始めさせていただきます

本日はお忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから東京都社会的養護自立支援協議会、第３回を開催いたします。

子供・子育て支援部育成支援課長の六串と申します。議事に入りますまでの進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の会議はオンライン開催となってございます。ご出席の委員におかれましてはカメラをオンにしていただきまして、ご質問等の際にＴｅａｍｓの挙手機能などでお知らせをいただければと思います。ご発言の際はミュートを外していただき、お名前を名のっていただいてからお願いいたします。

資料について確認をさせていただきます。資料１と資料２がございます。不足等がございましたらお申し出いただければと思います。会議中は画面共有もいたしますので、そちらでもご覧いただけるかと思います。

出席委員の確認をさせていただきます。資料１の委員名簿のとおりでして、本日、廣瀧委員と池田委員は、事前に所用の事情によりご欠席というふうに伺ってございます。そのほかの皆様は、特段ご連絡いただいておりませんが、平見委員、それから能登委員、細野委員がちょっと遅れていらっしゃっているようですので、後ほどまたご参加いただけるものと思います。

この協議会は公開となってございます。資料や議事録につきましては、後日、東京都のホームページで掲載する予定ですので、ご了承いただければと思います。

今回、傍聴はございません。

なお、今回も議事録作成のための速記を委託しておりますので、速記者も参加しております。ご了承ください。

それでは、この後の進行は委員長にお願いしたいと思います。川松委員長、お願いいたします。

○川松委員長　では、皆さんお疲れさまです。よろしくお願いします。

あれよあれよという間に年末になってしまいましたけど、何か実感が湧いてこない感じもしますけれども。よろしくお願いいたします。

それでは、社会的養護未経験者への調査（案）について、これからご議論いただくということになります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○水上課長代理　説明は水上のほうからさせていただきます。まずは画面共有させていただきます。資料の２をご覧いただければと思いますので、少々お待ちください。資料の２を今、画面共有させていただきました。

まず、第１回・第２回の協議会を踏まえまして、社会的養護未経験者、これまでつな

がりがなかった方々につきましてのインタビューについて検討してまいりました。このたびの社会的養護未経験者向けのアンケート調査の結果も踏まえまして、どのような支援を必要としているかについて、１０問程度のインタビュー形式での実施をしたいと考えております。

調査（案）概要のところをご覧いただければと思います。

期間につきましては、この年明け１月から２月にかけて、ふらっとホーム事業を利用している方に向けて実施したいと考えております。今、５名程度対応できそうというふうに調整がついておりますので、５名程度の方に向けてインタビューで調査をしたいと思います。

実施方法につきましては、対面で、インタビュー形式でということで考えておりますが、タイミングが難しい場合にはオンラインということも考えてございます。

それから、実施の場所ですけれども、こちらは実際のふらっとホーム事業所のところをお貸しいただけるということになっておりますので、スタッフの方にも立ち会っていただいた上で実施する想定で、今、おります。

次に、その下の設問項目の（案）です。こちらをご覧ください。

性別ですとか年齢などの基本情報をお聞きした上で、虐待を受けていた当時のことですとか、あと、それから現在のことに分けて質問をしたいというふうに考えております。

まず、虐待を受けていた当時のことにつきましては、虐待を受けていた期間ですとか、加害者との関係、虐待の種類といった、その虐待の基本的な情報とともに、公的支援につながらなかった理由についてお伺いしたいというふうに考えております。

また、今現在のことにつきましては、まずはふらっとホームに相談をした理由について、それから虐待を受けていたことによる、それに起因する現在の困り事、生活費だったり、学費だったり、就職・就学に関してだったり、健康面だったり、この辺りを広く聞いていきたいなと思っています。また、実際に具体的にどんな支援を必要としているかについても、併せてお伺いしたいなというふうに考えています。

委員の皆様には、こういった質問を追加したらどうかですとか、ぜひご意見をいただければなと思っております。

最後に、今後のスケジュールについてですけれども、今申し上げたように、１月から２月にかけてインタビュー調査を実施させていただいて、当初は２月の予定とさせていただいておりましたが、このインタビュー調査が終わりましたら、３月に第４回の協議会を開きまして、そこで未経験者へのインタビューの結果をご報告できたらと考えております。

この資料２につきましては、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

○川松委員長　ありがとうございました。

それでは、今説明いただきましたインタビュー（案）について、皆様からご意見をい

ただきたいと思います。では、どなたからでも結構ですので、ご意見のある方、挙手機能、手を挙げる機能でサインを出していただけたらと思います。お願いします。

細野さん、お願いします。

○細野委員　すみません。遅れてしまって申し訳ありませんでした。

公的支援につながらなかった理由なんですけども、何かそこで多分、社会的養護の存在、例えば児童相談所だったり、子供シェルターだったりとか、その自立援助ホームだったり、養護施設だったり、その存在は知っていたのかどうかみたいなとか、そういうところ、機関があるんだよというところを知っていたのか、知らなかったのかみたいなところも聞いていただけると、今後の我々の活動にも役に立つかなと思いました。口火を切りました。

○川松委員長　ありがとうございます。それは聞いていただきたいと思います。

これは質問文が書いていないから分からないですけど、公的支援という言葉自体が理解できないかもしれないので、具体的にどんなところのことを言っているか説明がないと、子供家庭センターに相談したかとか、児童養護施設のことを知っていたかとか、何か具体的に聞く質問でないと答えにくいかなという気がしますね。ご検討ください。

○水上課長代理　ありがとうございます。

○川松委員長　じゃあ、森委員、お願いします。

○森委員　よろしくお願いします。

葛飾区では、社会的養護自立支援拠点事業の実施を検討しておるんですけども、今の細野さんにも関連するんですけど、社会的養護自立支援拠点事業みたいな、支援をつくっても、なかなか支援につながりづらい方々かなと思っておりまして、どういった働きかけなり、仕組みがあると、社会的養護自立支援拠点事業みたいな支援に行きやすいと考えますかというような質問をしていただけると、社会的養護自立支援拠点事業を実施するような児童相談所には役立つかと思いますし、結構有意義な質問ではないかなと思うので、ご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○川松委員長　ありがとうございます。

広報の仕方とかもありますよね、どんな情報があればいいのかとか、どんな伝えられ方をするといいのかとか。そもそもこの方たちはどうしてここを知ったのかとか、なぜ伝わったのかとか、もっとこんな広報の仕方があればつながってくるんじゃないかとかですかね。聞いていただけるといいと思います。よろしくお願いします。

ほかにはどうですか。

田中さん、どうですか。何か感想とかありますか。

○田中委員　まず、調査、このようにいただけるのは非常に重要なことだなと思って、ぜひやっていただきたいなと思っています。

私がこれを見たときに、多分、前段のアンケート調査でもそうだったんですが、ふら

っとホームという場所があるわけじゃないんですよね。ふらっとホームという事業名で、ゆずりはさんとか日向ぼっこさんとかがあるということなんですよね。

当事者は、ふらっとホームがゆずりはってつながらない、例えば。なので、何か具体的にふらっとホーム（ゆずりは、日向ぼっこ）とかってやると、当事者は分かる。要は、何か正式名称じゃなくて居場所の名前とかで覚えている子が多いので。前回参加できなかったので申し訳ないんですが、そういうふうに聞くと違ったかなと思ったりしていました。

あとは、ほかの委員の皆さんと同様に、どのように知ったかとか、純粋に利用頻度とかですね。利用頻度とどのように情報収集したかは知りたいです。

あと、純粋にそういった子たちもアンテナが高いとは思うので、純粋にどんな支援があったらいいですかとかは聞くと、みんな、ああだこうだ言ってくれると思うので、何か一緒に考えてくださいみたいなパートの質問があるといいかなと思いました。

あと、個人的には、東京都のふらっとホームさんはそれぞれどのようにされているか分かりませんが、交通費支給があってよかったとかあるかもしれないので、何かそういうパート、居場所によっては交通費出ますよというところがあると思うんですが、都ではないですかね。都のふらっとホーム事業は、場所による。

○水上課長代理　そうですね。一部、日向ぼっこさんとかは少し交通費の支援があると伺っています。

○田中委員　そういうのがあると行きやすいなのか、なくてもいいのかというのも、結構、民間の居場所は交通費出すよみたいな流れが増えているかなという印象があるので、そこも気になるかなという感じです。

○川松委員長　ありがとうございます。じゃあ、いろいろ出していただいてありがとうございます。ご検討ください。

○川松委員長

私が感じたことなんですけど、虐待を受けていた当時のことを聞くのにどれぐらい意味があるのかなというのは疑問があります。あんまりそこをこだわって最初に聞いていくと、結構落ち込んでしまうかもしれないですね。これが骨子みたいな感じにもなっちゃうような気もします。

そんなに必要な情報のような気もしないんですけど、どうですかね。

なぜ公的支援につながらなかったかは聞きたい、ぜひ聞きたいんですけど、どんな状況だったかはあんまり細かく聞かなくてもいいような気がする。どんなことがつらかったのかぐらいをちょっと聞く程度でよくないですかね。あんまり聞かなくてもいいような気がしました。

それから、現在の困り事が虐待を受けたことによる現在の困り事ってなっているんですけど、今困っていることが虐待を受けたことによるものかどうかって分からないような気がします。今困っていることは確かなんで、でもそれは虐待を受けたからかど

うかという区別は、ご当人ではつかないような気もするんですよね。だから、頭についている「虐待を受けたことによる」というのは、つけなくてもいいような気がするんですけれども、どうでしょうか。

それと、どんな応援をしてほしいかということはやっぱり聞いていただけたらなと。こんなことがあったらなというのを、希望を聞いていただけたらいいのかなというふうに思いました。

これ、どなたがインタビューされるんだろうなというのも気になります。誰が聞くかによっても大分違う気がするんですよね。そこはどなたがインタビューされるんですか。

○水上課長代理　今、このアンケート全体を調査委託している、工業市場研究所さんのほうに、追加の委託契約として締結予定になっているので、インタビュアーはその調査の業者さんの方に聞いていただくことになります。

ただ、ふらっとホームのスタッフさんも一緒に同席していただいて、そういった、今ご指摘いただいたような虐待に関する質問も多少はするところもありますので、その辺のケアも考えて、スタッフさんも入っていただいて、調査を受けていただく方は、ある程度落ち着いた状態でインタビューできるようにしたいとは思っています。

○川松委員長　先にそのふらっとホームのスタッフの方とかから聞いておいて、どんな聞き方をしたらいいのかとか、ちょっと練習ぐらいしてから臨んでいただいたほうがいいような気もするんですけど。

１回見学していただいたりとかして、様子を見ていただいてから聞いていただくほうがいいのかなとは思ったりしました。

○水上課長代理　ありがとうございます。

○川松委員長　よろしくご検討ください。

じゃあ、木本さん、お願いします。

○木本委員　日向ぼっこ、木本です。今おっしゃっていただいたことなんですけど、誰がインタビューするのかというのが、私も気になっていて。

この虐待を受けていた期間とか当時のことを聞くということを、聞かれるよということをご本人に言っておかないと、大変かなと思いますので。それを伝えたときに、インタビューを受けてくれる方が、例えばうちの場合だとどのくらいいるのかなという感じは今しています。

○川松委員長　そうですよね。事前にお伝えいただいておかないといけないですよね。

○木本委員　事前にやっぱり言っておかないとちょっと気の毒というか、はい。ご本人が大変かなという気はします。

○川松委員長　ありがとうございました。

じゃあ、どうですか、大体ご意見は伺えたでしょうか。いろいろと出ていますので、

修正をしていただいて、具体的な質問文みたいなところに落とし込んでいただけるとありがたいなと思います。１月だから、もう年明けすぐ始められるんでしょうか。

○六串課長　そうですね。こちら、なるべく早くと思っているのと、あと、今いただいたご意見も、実はこのインタビューは対面形式で実施しますので、先ほどご心配いただいていたような、例えばつながらなかった理由というところも、いわゆるアンケート調査のような１回のやり取りではなくて、より、やり取りの中で少し深くお聞きするところ。

先ほどの公的機関といったときに、例えばどういった、ご存じだったのかそもそも知らなかったのかとかというところも例示をしながら深掘りしていくことは可能かなというところと、虐待を受けていた当時の状況などは逆にあまり掘り下げずに、相手の反応を見ながら確認するということも可能かなと考えているところです。

今回、未経験者の調査というところで、どこまで広げて対象を調査するかというとこは、非常に我々も悩んだところではあったんですが、まずは公的な調査として実施するに当たっては、都が補助事業として実施しているふらっとホーム事業でつながっている方というところが、まずは最初に調査するべきところかなと考えて、今回、このような形で実施したところです。

何分、やはり結果的に５名程度しかサンプルとして集まらないというところでもありますので、引き続き、年度内にさらなるというのは難しいところではあるんですけれども、引き続き対応については考えてまいりたいと考えております。

○川松委員長　ありがとうございます。支援につながらなかった方から聞くのはとても貴重だし、とても大切なことだと思いますので、本当に支援が必要な方たちがこぼれていっているので、とても大事だと思いますので、ぜひ充実したインタビューになるように願っております。よろしくお願いします。

では、協議会における議事は以上になります。

何か、全体を通してご意見等ございますか。

（「なし」との声あり）

○川松委員長　なければ、これで議事は終了にいたします。

それでは、事務局からご説明お願いします。

○六串課長　川松委員長、委員の皆様、貴重なご意見、ありがとうございました。本日いただいたご意見も踏まえまして、社会的養護未経験者向けのインタビュー、年明け以降実施をしてまいりたいと考えております。

それでは、これで本日の社会的養護自立支援協議会は終了とさせていただきます。本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

（午後　１時５７分　閉会）